

東広島植物園では、園内での活動を中心に、温室や圃場で見られる季節の花など、さまざまな情報を紹介しています。

☆組織改編・・・植物管理室は、2019年4月より統合生命科学研究科・附属宮島自然植物実験所の所属となりました。

園内の作物 ～okra～

okraは、アフリカ原産のアオイ科の植物で暑さには強い特徴をもっています。古代エジプトでも、すでに栽培されていました。



花okra

花okraは中国原産で別名「トロロアオイ」と呼ばれています。花びらが大きく、花を食用とします。花には実と同じように粘りがあり、生のままでサラダにしたり、天ぷらにして食べます。



角okra



赤okra

okraの独特の「ねばねば」は、ペクチンやムチンなどの栄養成分で、主に水溶性繊維です。赤okraは、加熱すると緑色になります。



丸okra

キャンパスのガマ

キャンパス敷地内には、3種のガマの仲間が自生しています。ヒメガマは、山中池で、ガマは角脇川に多く見られます。コガマは、陣が平周辺のため池などで稀に見られます。



ガマ



コガマ



ヒメガマ

- ・ガマ・・・雄花の集まりと雌花の集まりの間に隙間がない。ヒメガマより葉の幅が大きい。
- ・コガマ・・・雄花の集まりと雌花の集まりの間に隙間がない。ガマより葉が細く薄い。
- ・ヒメガマ・・・雄花の集まりと雌花の集まりの間に隙間がある。隙間の軸は緑色。

*開花時期は6-8月で、ガマが最も早く、ヒメガマ、コガマと続いて咲いていきます。

学内の緑化活動

7月28日に、中央図書館前花壇で緑化活動を行いました。暑い時期のため、作業時間を例年の半分(30分)にして実施しましたが、学生ボランティアの協力を得て、予定通りの作業を終えることが出来ました。今回は、夏の暑さにも耐えられるようにセンニチコウを植えつけました。さらには、灌水チューブも設置し、秋まで花をきれいに維持できればと思います。



栽培実習・R3年春コース



実習では、薬剤散布や追肥など栽培の基本作業も体験しました。

R3年度の春コースは、予定通り終了いたしました。今年初めて取り組んだキュウリも順調に生育し、たくさん収穫することが出来ました。生育期の雨量が適度であり、トウモロコシ、エダマメも実が大きくなりました。ナス、ピーマン、トマトは引き続き、8月まで収穫していきます。



学童保育・ピオトーフ



7月27日に、学童保育の小学生11名がふれあいピオトーフで体験を行いました。ピオトーフには、外来生物のアメリカザリガニが生息していますが、ヤゴやオタマジャクシ、小型のゲンゴロウ、ミスカマキリなど、いくつかの在来生物も観察することが出来ました。



最初に、「ピオトーフとは何か」について説明

CSR活動(7月21日) 万葉花壇の整備

文学部には、万葉の植物が植えられている花壇がありました。年数がたち荒れた状態でした。この度、CSRのメンバーと一緒に草刈りなどの整備を行い、良好な状態を取り戻しました。今後も、継続して整備を続け充実化を図る予定です。



園内の花

ユウスゲ *Hemerocallis citrina* var. *vespertina*



ススキ/キ科(ワスレグサ科) 山地の草原や林縁などの少し乾いた場所に生育する。花は淡黄色で、夕方に開き、翌日の午前中には閉じる一日花。やや芳香がある。別名：キスゲ。

園内の花

ヤフラン *Liriope muscari*



キジカクシ科(クサスギカスラ科) 林床などで普通に見られる常緑多年草。日本には、ヤフラン、コヤフラン、ヒメヤフランの3種が自生している。園芸種には斑入りのものもあり、造園の植栽材料として利用される。



【お問い合わせ先】

広島大学 統合生命科学研究科 東広島植物園

TEL:082-422-7111 (内線2842)

E-mail: tshioji@hiroshima-u.ac.jp